

## No. 1 道路の変更に関する案件概要

### 議第 1152 号 横浜国際港都建設計画道路の変更

種別	名称		位置			区域	構造				備考
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造形式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
幹線街路	3・1・3	東京大師横浜線	鶴見区寛政町(川崎市界)	鶴見区生麦三丁目	鶴見区小野町	約 3,520m	地表式	4車線	40m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R 鶴見線と立体交差</li> <li>・ 自動車専用道路と立体交差 2 箇所</li> <li>・ 幹線街路と平面交差 7 箇所</li> </ul>	路線の幅員 25~40m

(内容)

3・1・3号東京大師横浜線は、鶴見区寛政町(川崎市界)を起点とし、鶴見区生麦三丁目を終点とする延長約 3,530 メートル、代表幅員 40 メートル、4車線の都市計画道路で、大型車両の交通量も多く、緊急輸送路に指定されています。

本路線は、昭和 21 年に都市計画決定し、順次整備を進め、鶴見大橋周辺区間を除く大部分が完成しています。現在の鶴見大橋は昭和 38 年の完成後、約 50 年が経過しており、老朽化が進行しています。そのため平成 19 年 3 月に事業認可を受け、架け替え事業を進めています。また、本路線は、1・4・6号高速横浜環状北線の生麦ジャンクション連結路と立体交差しています。

今回、本路線及び高速横浜環状北線の相互の設計を見直した結果、高速横浜環状北線の生麦ジャンクション連結路の短縮が可能となり、本路線の線形改善による安全性、走行性の向上が図られるため、本路線の区域を変更します。

議第 1153 号 横浜国際港都建設計画道路の変更

種別	名称		位置			区域	構造				備考
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造形式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
自動車専用道路	1・4・6	高速横浜環状北線	都筑区川向町	鶴見区生麦二丁目	港北区新羽町 鶴見区馬場七丁目 神奈川区子安台一丁目	約 8,230m		4車線	20m		
	構造形式の内訳			都筑区川向町	港北区新羽町		約 1,020m	嵩上式	/	18m	
				港北区新羽町	神奈川区子安台一丁目		約 5,920m	地下式		20m	
				鶴見区岸谷一丁目	鶴見区生麦二丁目		約 1,100m	嵩上式		18m	
							約 190m	地表式		18~20m	
				なお、都筑区川向町地内に			ジャンクションを設ける。			国道 466 号に接続 都市計画道路 高速横浜環状北西線 に接続	
				なお、都筑区川向町地内に			出口 1 箇所 入口 1 箇所			終点方向入口 都市計画道路 川向線に接続 起点方向出口 都市計画道路 川向線に接続	
				港北区新羽町地内に			出口 2 箇所 入口 2 箇所			起点方向入口、出口 都市計画道路 長島大竹線に接続 終点方向入口、出口 都市計画道路 長島大竹線に接続	
				鶴見区馬場七丁目地内に			出口 2 箇所 入口 1 箇所			起点方向出口 都市計画道路 大田神奈川線に接続 終点方向入口、出口 都市計画道路 大田神奈川線に接続	
				神奈川区西寺尾一丁目地内に			入口 1 箇所			起点方向入口 都市計画道路 大田神奈川線に接続	

	鶴見区岸谷一丁目地内に	入口 1 箇所	終点方向入口 都市計画道路 岸谷生麦線に接続
	鶴見区生麦一丁目地内に	出口 2 箇所 入口 1 箇所を設ける。	起点方向入口、出口 都市計画道路 岸谷生麦線に接続 終点方向出口 都市計画道路 岸谷生麦線に接続
	なお、鶴見区生麦二丁目地内に	ジャンクションを設ける。	都市計画道路 高速大黒線、 都市計画道路 横浜羽田空港線に接 続
	なお、都筑区川向町地内に	管理施設約 7,800 m <sup>2</sup> を設ける。	

(内容)

1・4・6号高速横浜環状北線は、第三京浜道路の港北インターチェンジから新横浜・菊名付近を經由し、1・4・1号横浜羽田空港線及び1・4・5号高速大黒線の接続部である生麦ジャンクションまでを結ぶ延長約8,230メートルの自動車専用道路として平成12年7月14日に都市計画決定しました。その後、平成13年12月4日に都市計画事業承認を受け、首都高速道路株式会社(旧「首都高速道路公団」)が事業を進めています。また、生麦ジャンクションにおいて、本路線の連結路が3・1・3号東京大師横浜線と立体交差しています。

今回、本路線及び東京大師横浜線の相互の設計を見直した結果、本路線の生麦ジャンクション連結路の短縮が可能となり、東京大師横浜線の線形改善による安全性、走行性の向上が図られるため、本路線の区域を変更します。